

現状の課題

- 既存施設の老朽化
- 衛生管理基準への対応
- 生徒数減少への対応
- 市公共施設の総量縮減
- 経済的・効率的な施設づくりが必要
- カーボンニュートラルの実現、災害対応力向上

課題解決

市有地を活用し、集約化・新設(P F I)
A G C郡山カルチャーパーク 第3～5駐車場及び未利用地

コンセプト・目指す姿

コンセプト案：「**持続可能な未来を支える学校給食センター**」

目指す姿： **物価高騰下でも質や量を維持**

- ①安全・安心で栄養バランスの取れたおいしい学校給食を継続的に安定提供できる施設
- ②気候変動に対応した持続可能な施設(S D G s・G X・防災機能)
- ③経済的・効率的に給食が提供できる適正規模の施設

新給食センターで導入を想定する機能

機 能	導 入 効 果
炊飯設備/防災拠点	災害時の炊出し等による防災力向上。
アレルギー調理室	アレルギー食の提供によるサービス向上。
厨芥(ちゅうかい)処理機	生ごみの減容化、ごみ処理の効率化。
Z E B化・太陽光発電等	カーボンニュートラルに寄与。光熱費節減。

整備手法

コスト以外にも以下のメリットがあるため、**P F I手法**を活用。

- ①設計・建設から維持管理・運営までを一括契約するため、運営や維持管理の効率が良い施設づくりと経費削減が期待できる。
- ②民間企業の豊富なノウハウが活用できる。
- ③民間資金調達により財政負担が平準化される。
- ④金融機関の経営モニタリングが入る。

国県補助・起債等あらゆる
財源を検討し、市財政負担
の軽減を図る。

スケジュール(予定)

令和 6 年度 (2024)	令和 7 年度 (2025)	令和 8 年度 (2026)	令和 9 年度 (2027)	令和10年度 (2028)
公募準備	公募選定	設計・建設		給食 提供 開始
アドバイザー業務		モニタリング業務		
用地測量・ 進入路設計		進入路等整備		

※維持管理・運営の委託期間は15年間を想定
献立作成・食材調達は従来通り市が実施

9月補正予算概要

◆補正予算総額(債務負担行為37,888千円含む)	69,411千円【一般財源】
●アドバイザー業務 (現年予算11,688千円+ R 7～10年度債務負担行為：37,888千円) ・P F I事業実施支援に係るコンサルティング会社等への委託料	49,576千円
●P F I事業者選定審議会 ・P F I事業者選定審議会の運営に要する経費	263千円
●新給食センター用地測量	3,955千円
●進入路測量・設計委託料【繰越明許：全額】	15,617千円

